

■今月の特選句

2012年7月号

百円で睨みをきかすサングラス

田村米生

「お説教子の将来を案じつつ」「その昔説教されたやうに説く」「子に説教自身の過去は棚にあげ」。あれれ、昆虫の「道をしへ」のことでしたか。

子燕の口に溢るる自己主張

笠 政人

生存競争に遠慮などあるものか。自己主張という断定がよい。「口に溢れる」として生き物賛美の姿勢にも好感。「子燕の口に生き方教えらる」。

床の間の壁に草書のなめくじり

藤岡蒼樹

這った軌跡を「草書」と見た。蛞蝓自身は芸術活動と思っていないが、無作為の作品として、高い芸術性がある。「蛞蝓の軌跡アートを売り出さむ」。

一番の長老となり屑金魚

ひがし愛

出自と寿命は関係ない。この句は実体験だろうね。滑稽句の基礎は「観察眼」にあり。「長老の金魚にありぬ隠しごと 出自は夜店の金魚掬いよ」。

隊長も同じ顔して目高隊

有富洋二

目高の群れを「隊」と見て、先頭の目高を隊長と断定。そして隊長も一般隊員と同じ顔だという発見と可笑しさ。「威張ったりせず隊長の目高君」。

右利や左団扇と言うけれど

高田敏男

右利きの人が、左で扇ぐ場合はゆったりとしたものなる。その「ゆとり」を「左団扇」と呼んだ。すると「左利き左団扇をせかせかと」になる。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- 燕の子体半分口となる
・・・食欲だけはかなりのものよ
井野ひろみ
- 噴水の立ち上り過ぎ戻りけり
・・・挫折の一步手前にあらむ
宇佐美徹郎
- この商売もうあきまへん蠅叩
・・・などと頑張り三十余年
小林英昭
- 渡る世に命綱なし冷し酒
・・・渡る世間は鬼ばかりとも
清水吞舟
- 夏空に薬指のべ金環食
・・・意図はわかるが火傷をするぜ
百千草
- 高飛び込み人間が降る水の音
・・・芭蕉なら何と詠むだろう
栗倉健二
- 炎天の同行二人は影法師
・・・雨や曇りはひとり歩きに
高橋素子
- 口笛や鶯の声師と仰ぎ
・・・口笛真似る鶯も居て
渡辺さだを
- 父の日の通り過ぎたる月曜日
・・・気がついただけましにやあらむ
西をさむ
- 生き下手を口ぐせにして更衣
・・・口下手などと話上手は
蔦 恵

口ばかり育つ少女や夏はじめ
・・・そろそろ親の目を盗む術

板倉肱泉

終日使用風鈴の音は値上がらず
・・・「ね」といふ一字使ひこなして

石川節子

天瓜粉ちんぼこの子を取り逃す
・・・父は警察官かも知れず

飯塚ひろし

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|----------------------|
| | 不幸せ千差万別蟻地獄 | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 海女小屋の賑わう恋の裏話
養老院行き止まりです道おしえ | 青木輝子
青木輝子 |
| | 川泳ぐ鵜と鯉真すぐ亀は横 | 青山桂一 |
| 【佳作】 | ラムネ瓶こはごは押せし日も遠し
雲たちはホイップクリーム青嵐 | 青山桂一
青山桂一 |
| | 花冷や鼻にガーゼのマスク被せ | 秋月裕子 |
| 【佳作】 | 青年等青葉に染まり実習す
青葉潮戦禍生き延び原発も | 秋月裕子
秋月裕子 |
| | 誰もみな思慮深めに見え木下闇
囀りや形(なり)小さくもフォルティシモ | 麻生やよひ |
| 【佳作】 | 振じれても根は素直なり文字摺草 | 麻生やよひ
麻生やよひ |
| 【佳作】 | 蝸牛スカイツリーを制覇する
お話があります梅雨じめりの夜
蛞蝓は負けず嫌いで見栄っぱり | 足立淑子
足立淑子
足立淑子 |
| | 夏痩せのバリウム検査お代わりす | 有富洋二 |
| 【佳作】 | 節電や古扇風機首振らず | 有富洋二 |
| | ごきぶりや人類絶へし後までも | 有吉堅二 |
| 【佳作】 | 酒断ちの決意の鈍る初がお
尺蠖のとまどつてゐる枝の先 | 有吉堅二
有吉堅二 |
| 【佳作】 | ここは海治外法権の細ビキニ
水着脱ぐ親が引き継ぐ太い足 | 栗倉健二
栗倉健二 |
| | 新樹光八十路九十路も華やげり
滴りやばあばの目鼻口元も | 安藤淑子 |
| 【佳作】 | 句苦作可笑しみ滲まぬ梅雨ひでり | 安藤淑子
安藤淑子 |
| 【佳作】 | 仏壇と箆筒流るる出水かな
鏝広く太股かくす夏帽子 | 飯塚ひろし
飯塚ひろし |
| 【佳作】 | この香り待っていたのよ花蜜柑
梅干の酸味に頼る二日酔ひ | 井口夏子
井口夏子 |

	私は螢袋よ逢ひに来よ	井口夏子
【佳作】	春嵐破れ傘でも相合傘 負け方にも四十八手あり土俵舐め	池田亮二 池田亮二
	火取虫隠れて読みし頃の本 螢火や貧乏神の橋の下	板倉肱泉 板倉肱泉
【佳作】	小判草ローン庭に乱れ咲く 河川敷レディースゴルフ行々子 紙魚の棲む歳時記めぐり一句かな	伊地知寛 伊地知寛 伊地知寛
【佳作】	肥船か窓なき船に春の蠅 金環蝕キンカン塗って蚊のいくさ フェリー航く卯波の下に潜水艦	伊藤浩睦 伊藤浩睦 伊藤浩睦
【佳作】	地球儀にかすかな指紋黄砂降る 何処までも行くかとみせてしやぼん玉 紫陽花が門に構へて留守の家	稲沢進一 稲沢進一 稲沢進一
【佳作】	新緑や季語多くして句の成らず 振り向くは蛇の会釈か草陰へ	井野ひろみ 井野ひろみ
【佳作】	里若葉金星を追ひ小半日 ガラス器をぶつかりあへるさくらんぼ 七変化心変はりを許されず	今城夏枝 今城夏枝 今城夏枝
【佳作】	モンゴルの国技となりき五月場所 鼻かみて金環日食初夏の空 亜細亜象阿弗利加象米穀象	入江澄泉 入江澄泉 入江澄泉
【佳作】	推敲もいいかげんにせよと炎天下 蛇に足あるものかとて穴を出る	宇佐美徹郎 宇佐美徹郎
【佳作】	スカイツリー川に映して鰻筒 炎昼や喘ぐポストに口二つ 落し文後ろで嗤ふやせ鴉	氏家頼一 氏家頼一 氏家頼一
【佳作】	誰れからも忘れられたる大朝寝 献立に困った妻のとろろ汁 甚平や余生折目のなき暮し	越前春生 越前春生 越前春生

- 【佳作】 囀りは雲雀にも似た女学生 大関のどか
- 神輿渡御見番前にカメラマン 奥脇弘久
見映え良しアメリカ育ちのさくらんぼ 奥脇弘久
- 【佳作】 江戸前の穴子てこずる男前 奥脇弘久
- 【佳作】 満腹の蚊のとび立てず打たれけり 笠 政人
水ほどに割りし焼酎クラス会 笠 政人
- ビスケットの穴を通過の金環食 加藤澄子
【佳作】 口ひげをはやして虎耳草どれも 加藤澄子
夏座敷茶筌の音の幽かなり 加藤澄子
- 顔覆ふ日除の白さ眩しすぎ 加藤 賢
雨晴れてことさらに鳴く青蛙 加藤 賢
- 【佳作】 緑蔭や句碑になりたき石一つ 加藤 賢
- 【佳作】 まくなぎに本性しかと見られけり 金澤 健
蝙蝠は逆立ちのつもり空を飛ぶ 金澤 健
賀茂祭歴史に人を眠らさず 金澤 健
- 長生きは亡国と言ふ亀鳴けり 川島智子
十薬と呼ばれるだけにこのしぶとさ 川島智子
- 【佳作】 びっしりとあばら屋囲む小判草 川島智子
- 汗をかき必死に走る蛞蝓 久我正明
雲による完全日食夏の空 久我正明
- 【佳作】 背に腹をくっつけ休む鯉のぼり 久我正明
- 一八や右手を挙げて招き猫 工藤泰子
【佳作】 日蝕の空のもとなる天道虫 工藤泰子
五月闇ページ一枚失うて 工藤泰子
- 【佳作】 軒下に干され泳げぬ鯉幟 黒田忠一
- 杖曳いて嫁に食はせんメロンかな 小杉 隆
【佳作】 質草に亭主は駄目と初鯉 小杉 隆
蜘蛛の巣に捕わる蜻蛉なおも愛 小杉 隆
- 【佳作】 甚平に相談してもあかぬ埒 小林英昭
焼酎が好きで出世をあきらめる 小林英昭

- | | |
|--|-------------------------|
| 瓦礫拒否みんなが日本人なのに
校舎減り介護施設が増える街 | 齋藤八兵衛
齋藤八兵衛
齋藤八兵衛 |
| 【佳作】 薄いテレビで番組も薄くなり | |
| 父の日や所詮男は縁の下
携帯の亡者うごめく五月闇 | 酒井鹿洋
酒井鹿洋
酒井鹿洋 |
| 【佳作】 噴水の洗礼受けし一張羅 | |
| 安宿の思ひもよらぬ櫻鯛
蚊の声やても不機嫌な御面相 | 佐藤古城
佐藤古城
佐藤古城 |
| 【佳作】 ぼいん吸ひ蝸の打たるる懈さかな | |
| 暑さ飛ぶ相模原から見る六三四
日蝕にカラスも犬も姿消し
竜頭か泥鰯うなぎかいわし雲 | 柴田真一
柴田真一
柴田真一 |
| 【佳作】 やんはりと団扇で払ふ妻の愚痴
なみなみと注ぎて飲めよ蝮酒 | 清水吞舟
清水吞舟 |
| 夏祓サプリのやうな妻が居て
ぼうふらや明日は明日の風が吹く | 下嶋四万歩
下嶋四万歩
下嶋四万歩 |
| 【佳作】 なかんずく冷房風は嫌である | |
| 候補者に激励さるや代田搔く
軽口な雲雀に誘はれ歩数伸び
メモ通り過ぎし妻待つ朧月 | 壽命秀次
壽命秀次
壽命秀次 |
| 【佳作】 故里は帰る所やつばめ来る
メタボ腹あらはに見せて更衣
螢火や一気に駈けし肝試し | 白井道義
白井道義
白井道義 |
| ホケキョホケキョ私も好きよホーホケキョ
赤字覚悟で咲いたかみかんの花 | 鈴木和枝
鈴木和枝
鈴木和枝 |
| 【佳作】 ダンゴムシ急ぐ金環日食の朝 | |
| うちわ持ちラーメン食べてあと一步
風薫り路地裏を猫は歩いて | 鈴木哲也
鈴木哲也
鈴木哲也 |
| 【佳作】 おばあさん犬を散歩に薄暑でも | |
| ペンギンの右往左往や夏に入る
口八丁喋りは駄目よ袋掛 | 高田敏男
高田敏男 |

- | | | |
|------|--|----------------------|
| 【佳作】 | 十薬を引きて通販サプリ買う
五臓六腑までは届かぬ微炭酸
なんとなくスリムに中国産鰻 | 高橋 都
高橋 都
高橋 都 |
| 【佳作】 | 婆と鳴くことを知らずに蝉爺と
手の平で水をくすぐる夏の川 | 高橋素子
高橋素子 |
| 【佳作】 | 理趣経をうけたまはるはあやめかな
目にバラを突き刺す痛み忘れめや
薔薇の香嗅いで連想記憶かな | 田中 勇
田中 勇
田中 勇 |
| 【佳作】 | 百年の恋の行方や大きくしゃみ
岩の鶉は哲学者なり春落暉
たかんなの一刀両断受けにけり | 田中早苗
田中早苗
田中早苗 |
| 【佳作】 | へそピアスちらにぴかりと街薄暑
網戸したことを忘れて痴話喧嘩 | 田村米生
田村米生 |
| 【佳作】 | へぼきゅうり味に変わりはないけれど
予定なく庭に草ひく立夏かな | 蔦恵
蔦恵 |
| 【佳作】 | ほらあれがスカイツリーよ五月晴れ
父の日に来し母の日の請求書
更衣はにかみ色のツーショット | 飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝 |
| 【佳作】 | 遊園地鞠の大きな濃あぢさゐ
かたつむり雨にも負けず竹攀づる
梅雨最中籠りて食ふは最中にて | 永島董玉
永島董玉
永島董玉 |
| 【佳作】 | 若夏へみんな口開け金環食
太陽の孤独や夏の泣き黒子 | 西をさむ
西をさむ |
| 【佳作】 | 一円をあたふたさぐる薄暑かな
ボタン押す足の親指扇風機
白熊に抱かれ炎暑の氷かな | 原田 曄
原田 曄
原田 曄 |
| 【佳作】 | 不眠症亀は兎に勝ちにけり
昼寝覚三途の川を下見して | ひがし愛
ひがし愛 |
| 【佳作】 | 蚊を殺すことは無いけど蚊帳も武器
米国製シリアルフード昭和の日
ポスターの美女は水着よ梅雨に入る | 彦阪義久
彦阪義久
彦阪義久 |

- | | | |
|------|--|-------------------------|
| | 節電に一役買って竹夫人
青梅の末は梅干婆となり | 久松久子
久松久子 |
| 【佳作】 | 一山を不眠症にし揚花火 | 久松久子 |
| 【佳作】 | ぜんまいの仕掛にあらむ時計草
一陣の風紫陽花を振り向かす
見つけてと銀の足跡蝸牛 | 日根野聖子
日根野聖子
日根野聖子 |
| | 蚤の嘴飽食からだ攪りぬ | 藤岡蒼樹 |
| 【佳作】 | 枝へ枝放つ曲芸の蜘蛛の糸 | 藤岡蒼樹 |
| | 人間も急須も古りて旨き古茶
ぜいたくな悩み浴衣かTシャツか | 藤森荘吉
藤森荘吉 |
| 【佳作】 | 十薬のはびこるなどと言はれもし | 藤森荘吉 |
| | 夏は来ぬ棚田の縞のさ緑に
三日月とみどりを並べ棚田かな | 藤原セツ子
藤原セツ子 |
| 【佳作】 | 便秘してをり黄金週間のトンネルは | 藤原セツ子 |
| 【佳作】 | カビ見ればすぐペニシリンと言ふ齡
懐かしむ昭和一桁蚤虱
婆さまも塗り立てなるぞ青蛙 | 前 九疑
前 九疑
前 九疑 |
| 【佳作】 | 手羽先に力はいらぬ羽抜鶏
夕立に託つけ誘ふラブホかな
梅雨曇ざるそばすするつゆの音 | 松尾軍治
松尾軍治
松尾軍治 |
| 【佳作】 | 芍薬や喩ふる女の見当らず
兼題のつばくら尋ね日もすがら
TAXME 富者もデモとや五月尽 | 丸山紘一
丸山紘一
丸山紘一 |
| 【佳作】 | これ以上おけばひねます枝豆も
口論もたまにはよろしソーダ水
梅雨寒や乾杯の土気曇りがち | 三塚不二
三塚不二
三塚不二 |
| | ピンポンをヤドカリ見に来る島の宿 | 三橋百笑 |
| 【佳作】 | われ以外ビーチは眠らぬ夏の夜
離島にも橋の掛かりてハブも来る | 三橋百笑
三橋百笑 |
| 【佳作】 | 有頂天なれば雲雀のこゑばかり
逃げまどふ穀象とらえ逡巡す | 宮森 輝
宮森 輝 |

- | | |
|--|-------------------------|
| 若人の瞳に若葉もゆ心もゆ | 宮森 輝 |
| 触覚のごとく鉄塔島茂る
蝸牛投句メ切り間に合わぬ
梅雨曇洗濯物は肩落とし | 村上美和
村上美和
村上美和 |
| 【佳作】 店員を呼べば睨まれ薄暑かな
葉桜や千鳥ヶ淵に千鳥みず | 百千草
百千草 |
| 綻ばぬ蕾に焦れる黒揚羽蝶
【佳作】 私のストレス指数積乱雲
宵の風笑ひ出したる蛙かな | 森岡香代子
森岡香代子
森岡香代子 |
| 【佳作】 目に阿呆婆端午の節句はいつかのう
三つ葉群れ苦労ば視取る四葉わせに
【佳作】 雨身方陽にも身方だコウモリは | 森 要
森 要
森 要 |
| 【佳作】 おしぼりの冷たさ夏の季語とせむ
痛さうや子燕口をひらき切り
手の甲が好きで吸ひつきかたつむり | 八木 健
八木 健
八木 健 |
| 【佳作】 少子化に鯉幟もや少なけれ
すててこは部屋着だどんと胡坐かく
告白し大夕焼に嫉妬かな | 八洲忙閑
八洲忙閑
八洲忙閑 |
| 納涼の王冠はみな不燃物
並行のままの視点の青簾
【佳作】 裏までも明け透けにして竹婦人 | 柳 紅生
柳 紅生
柳 紅生 |
| 虐待されショウ君猫の夏ホテル
【佳作】 夏料理ガツガツ食べる癌の夫
つつじ咲く津軽弁当津軽弁 | 柳澤京子
柳澤京子
柳澤京子 |
| 残雪と見紛ひ路の花水木
【佳作】 風を呑み風に呑まれて鯉のぼり
行く道に藤の花あり美德あり | 山下正純
山下正純
山下正純 |
| 莢のでこぼこ実りたるゑんどう豆
【佳作】 水を欲しがりベランダの若楓
待合の花瓶のぐみを口にする | 山本けい子
山本けい子
山本けい子 |
| 【佳作】 散葉に敏感な鼻五月晴 | 山本 賜 |

夏柳真下に立つて人を待つ
石切の名人修業夏休

山本 賜
山本 賜

拗ねてゐる桜恨めしツアーバス
猫にまで置き去りにされ春炬燵

横山喜三郎
横山喜三郎
横山喜三郎

【佳作】 先生が真つ先に逃げ青大将

【佳作】 就職戦線異状はなしや余り苗
みちのくは瓦礫の山ぞ減る燕

渡辺さだを
渡辺さだを